『短期大学部の系譜
―家政科から生活文化専攻、そして生活福祉専攻へ―』

統括副学長　**藤　原　潤　一**

2021年３月、生活福祉専攻は最後の学生たちを送り出して、その専攻としての幕を下ろす。本専攻の足跡と地域の社会的介護分野に果たした貢献をたどる前に、その前身の歴史について思い起こしておきたい。

本学は、1964年、家政科の女子の単科短期大学として創設された。その女子教育機関としての歴史は、1898年に沢井兵次郎氏が創設した女子裁縫専門学校に遡ることができる。この「家政科」が、生活福祉専攻のルーツである。その後短期大学は、食物栄養専攻、幼児教育学科を増設し、現在の学科構成に拡大してきたが、他方で家政科は、1987年に生活文化専攻に改組し、情報系や語学系の科目を拡充する改革を実施した。そして、2002年、生活文化専攻を、プロフェショナルな社会的介護の担い手を養成する介護福祉系の生活福祉専攻に大きく改組した。

生活福祉専攻の創設には、以下のような背景があった。第一に、上に記したように本学創立時以来の「家政系学科・専攻」からの抜本的な離脱になったことである。家政科から生活文化専攻への系譜は、衣・食・住とホームエコノミクスを中核にした、性別役割分業のもとで主に家庭内役割を担う女性が学ぶ、専門性の高い科学的な教育内容であった。

20世紀末期から21世紀へ、家族のかたちの多様化と変化が進むとともに男女間の役割分担のあり方が大きく変わりつつある。本格的な外役割を担う女性が増加してきた。こうした女性を取り巻く社会情勢と環境の変化を踏まえて、女性が職業に直接結びつく学びとその先にある資格の取得を目指す教育課程への転換改組を図ったのである。

第二に、世界の先頭を走る日本社会の高齢化のもとで、年老いた老親の介護を主に妻・嫁・娘の女性が担う「家族介護」から「社会的介護」へ移行していった。こうした状況下で、地域の社会的介護の担い手不足とその社会的需要の増大が顕在化してきた。この社会的介護を制度として位置づけたのが「介護保険制度」であり、そのもとで活動する専門性の高い介護知識と技術を身に着けた社会的介護の担い手が、新しく国家資格として誕生した「介護福祉士」である。かくして新設された生活福祉専攻は、専門性の高い介護知識と技術を学び、卒業時に栄養士や保育士と同様の名称独占国家資格である介護福祉士資格の取得を目指す専攻に生まれかわった。

2002年の開設以来、現在に至る18年間の同専攻の歩みを振り返る。専攻の定員は生活文化専攻時代と同じ50名、初年度の入学生は18名であった。その後着実に入学生が増加し2005年には39名の入学生を迎えた。本専攻が地域社会と地域の高校に認識されていったことと、介護現場で資格を持たずに働いていた社会人の入学が多かったことがその背景にあった。その後、2009年から、リーマンショックをきっかけとした不況下における離職者対策と介護現場の担い手不足のふたつの課題を解決するために、介護福祉士を養成する養成校の学費を公費で負担するかたちで政府が募集した「委託訓練生」の受け入れを始めた。以後、毎年数名から10名前後の社会人が委託訓練生として入学し、２年間の学びとともに介護福祉士の資格を手にして社会的介護の現場に巣立っていった。

そして、2011年、短期大学部は1964年の創立以来の女子短期大学の歴史を閉じ、男女共学の短期大学に生まれかわった。1898年の女子裁縫専門学校の開設まで遡ると、１世紀以上にわたる女子教育の伝統からの大きな方向転換となった。以降、介護現場における男性スタッフの増加という変化とともに、本専攻に進学してくる男子学生が増えていった。共学化以降、本学

３学科・専攻のなかでは、生活福祉専攻の男子学生比率が最も高く推移した。

しかし、新しく創設された専攻に集った意欲にあふれた教員の熱心な教育活動と大学を挙げての広報活動にもかかわらず、2006 年以降は入学生の伸び悩みに苦しんだ。特に、2008 年からは入学生が定員の二分の一以下、という低迷が続いた。上に記した本学の懸命の努力の外側で、この時期、社会的介護分野の現場を取り巻く状況は複雑さを増していった。介護労働の厳しさと賃金水準の低位性がマスメディア等の報道を通して過度に増幅され、社会を覆った時期であった。さらに社会的介護の領域が、日本経済の「規制緩和」の流れのなかで、競争と効率を求める市場経済の中に投げ込まれ、利潤を上げることを目的とする企業の参入が始まった。介護保険制度の不十分さも加わって、介護労働の社会的地位と、その重要性への認識がなかなか上がっていかなかった。

しかし、本学生活福祉専攻は18年間の歴史のなかで、350 名の卒業生を地域社会へ送り出してきた。その途中から、上に記したように委託訓練生の社会人や男子学生を加えて、短期大学生としての基礎・教養系の学びをふまえた優れた社会的介護の担い手たちが地域介護の現場を支え、確かに根をはりつづけている。

本学は、短期大学部・生活福祉専攻の介護福祉士養成の学問的、教育的蓄積を、今後保健福祉学部に繋ぐことを模索している。ソーシャルワークの知識と技術とその実際を学び、社会福祉士と精神保健福祉士資格の取得を目指すコミュニティ福祉学科に、介護福祉士養成カリキュラムを組み込もうと計画している。社会的介護に関わる高度な知識と技術を学ぶことによってより質の高いソーシャルワーカーの育成と介護の現場における多様な介護スタッフを統括できる「中核的な福祉・介護人材」の養成を目指すこととする。